

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年度目——ただし1年延長予定)

1. 研究課題

(和文) 日本の文学理論・芸術理論

(英文) Theories of Literature and Arts in Japan

2. 研究代表者

(氏名) 大浦康介

3. 研究期間

平成23年4月から平成27年3月まで

4. 研究目的 (400字程度)

日本ではこれまで(主に大学で)どのような文学・芸術理論が教えられてきたか、また日本に「土着の」文学・芸術理論があるとしたらそれはどのようなものか——これら二つの問いを中心的課題として研究を進める。前者は明治以降における英・独・仏の文芸理論の移入という問題と重なるだろうし、後者は近代以前も含めた、日本の歌論、物語論、芸能論、批評理論等の掘り起こしとその西洋理論との突き合わせという問題だと言い換えられるだろう。これらの問いを西洋理論の専門家が提起し、日本の文学や芸術の専門家を交えた場で討論したい。

5. 本年度の研究実施状況 (400字程度)

3年目にあたる平成25年は、前年に引き続き、日本の主要な文学・芸術理論関係の文献(とくに昭和期の文献)を班員全員で読み、それについて討論するという会読形式で研究会を開催するとともに、本研究会の研究報告として予定している『日本の文学理論 アンソロジー』の構想を発表し、刊行に向けての準備作業を開始した。また、国文学研究資料館の谷川恵一氏をゲストとして招き、最新の研究成果を披露していただいた。内容は以下のとおり。

4月22日:会読 杉山康彦『ことばの芸術』を読む(北村直子担当)

5月20日:会読 前田愛『近代読者の成立』『都市空間のなかの文学』『文学テキスト入門』を読む(日高佳紀担当)

6月3日:会読 「文学理論」としての九鬼周造『文學概論』を読む(岩松正洋担当)

6月17日:会読 イルメラ日地谷・キルシュネライト、エドワード・ファウラーを読む(イリナ・ホルカ担当)

7月1日:報告 アンソロジー構想(大浦康介担当)

7月22日:報告 谷川恵一:「遺稿集という言説空間」

10月7日:報告 アンソロジー構想(中村ともえ担当)

10月21日:報告 『文心雕龍』雑感(永田知之担当)

11月18日:報告 日本における映画理論(小川佐和子担当)

12月2日:報告 アンソロジー構想(笹尾佳代担当)

12月16日:討論会 文学入門をめぐる(大浦康介、飯島洋、岩松正洋、西川貴子担当)

2月3日:報告 アンソロジー構想(日高佳紀担当)

2月17日：報告 アンソロジー構想（鈴木洋仁・開信介・河田学・大浦康介担当）

6. 研究成果の概要（400字程度）

本年度の成果としてとくに挙げられるのは、本研究の最終成果として予定している『日本の文学理論 アンソロジー』の構想を発表し、その大枠を決定して、項目執筆に着手したことである。この『アンソロジー』の刊行は、二段階で考えている。まず、なるべく多くの資料を掲載した、ベータ版ともいふべき『資料集成』を来年度中に刊行し、それに関して内外の研究者の意見を聞いた上で、決定版の『アンソロジー』を作り上げたいと考えている。

7. 共同研究会に関連した公表実績（出版、公開シンポジウム、学会分科会、電子媒体など）

- 谷川恵一氏講演会「遺稿集という言説空間」（半公開、平成25年7月22日）
- 研究会ホームページ（<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~theory.jp/>）をつうじた文学理論関連文献リストの公表

8. 本年度の共同利用・共同研究の参加状況

区 分	機関数	受入人数		延べ人数			
		外国人	大学院生	外国人	大学院生		
学内（法人内）	2	9	1	3	120	10	25
国立大学	7	10	1	1	105	12	12
公立大学							
私立大学	10	10			115		
大学共同利用機関法人							
独立行政法人等公的研究機関	2	2			15		
民間機関							
外国機関							
その他							
計	21	31	2	4	355	22	37

研究参加者の所属機関数、参加人数、延べ人数を区分に応じて記入して下さい。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入して下さい。

※参加人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出して下さい。

- (例) ・1つの共同利用・共同研究課題で2人を共同研究員として3日間受け入れた（参加した場合）：参加人数2人、延べ人数6人

9. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

(参加研究者がファーストオーサーであるものを対象)

論文数	15	
うち国際学術誌に掲載された論文数	(1)	()

※下段の（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文

における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で論文数を記載。

役割			
論文数			
	うち国際学術誌に掲載された論文数	()	()

※下段の () 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載。

※ 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なものを以下に記載。

※ 拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
日本近代文学	1	読者論	日高佳紀
ドイツ啓蒙主義研究	1	18世紀の文学外的フィクション	齊藤渉
日本文学	1	「嘘」か「実(まこと)」か	西川貴子

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下に適切な指標とその理由を記載上で、掲載雑誌名等を記載。

拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		主なもの	
掲載雑誌名	掲載論文数	論文名	発表者名